

シアトルだより April 2016 Vol.1



神戸北高校のみなさんこんにちは。兵庫県とワシントン州の教員派遣制度により、4月21日木曜日にシアトルに到着しました。来年3月末まで現地に滞在します。

ワシントン州は、アメリカの北西、カナダとの境にあり、太平洋に面しています。よく間違えられますが、アメリカの首都はワシントン DC といって東海岸にあり、それとは別です。ワシントン州最大の都市がシアトル。マイクロソフトやアマゾンの本社があり、コンピュータ関連のソフトウェア産業が盛んです。スターバックスやタリーズといったコーヒーショップもシアトルから始



まりました。アメリカの中ではおしゃれな街という印象です。野球ではシアトル・マリナーズが有名です。同じ港町であるシアトル市と神戸市は姉妹都市で、50年の歴史があります。ワシントン州と兵庫県も姉妹提携を結んでいます。

シアトルには歴史的に日系の方が多く、日本料理のレストランがたくさんあります。また、スーパーでも日本の食材がある程度手に入ります。

韓国系の人も多いです。到着翌日には現地の日系人や日本人が日本文化を披露する Cherry Blossoms Festival がありました。その一環として、高校生日本語スキット・スピーチコンテストのお手伝いをしました。日本語を選択している高校生の有志が、自作のスキットやスピーチを披露する大会です。スキットはコント風のものもあり、まったく照れることなく思い切って楽しむ様子がすばらしく、そのレベルの高さにも驚かされました。その他茶道や書道、剣道、柔道、華道、合気道や居合道、



空手、三味線、舞、囲碁、折り紙から英語落語まで、さまざまな日本文化を紹介していました。すでに現地に溶け込んで、日本人でなくアメリカ人が中心になっているものも多くみられました。

翌週の25日月曜日よりさっそく現地高校での日本語の授業をチームティーチングで担当しました。日本語を選択しているおよそ120名の生徒はみな人なつこく、突然やってきた私を、自然に暖かく受け入れてくれました。おかげで1日目から元気に授業をやっています。週の終わりには、すっかり全員の名前を憶えて、日本語と英語を交えながらやりとりをしています。生徒の様子を見ながら、いろんなことに挑戦して楽しんで授業をしたいと思っています。

シアトルだより May 2016 Vol.2



みなさんこんにちは。今回は学校について紹介します。勤務している高校は、カミアック高校といい、シアトル市近郊のマカティオ市という小さな町にあります。落ち着いた住宅地という感じです。マカティオには高校が2つだけあって、行く高校は住所によって決まります。高校は1年から4年まであり、日本でいうと中3から高3の年代になります。

カミアック高校はとても大きく、全校生徒が2000人くらいで、先生も100人以上います。職員室がなく、先生は自分の教室にずっといるので、出会うことが少なく、顔と名前を覚えるのが大変です。

授業は、英語や数学、歴史、科学、体育などで、科目の内容は基本的に日本と大きく変わらないのですが、大きな違いは、時間割が毎日一緒ということです。一日6時間ですから、週6つの科目を5日間毎日やるということになります。日によって変わらないので間違

わないでいいです。外国語など反復が必要な教科には効率的と言えます。



カリキュラムは柔軟で、基本的にできることを伸ばすということに重きを置いているように思います。必修教科は決まっていますが、科目はそれぞれです。例えば理科は最低2年間が必修なのですが、同じ理科でも、化学Iと化学IIの生徒もいれば、総合理科と生物Iの生徒も

います。それぞれの興味関心や、学習到達状況に応じて履修するので、化学IからIIIにとぶこともあります。全員が4年間必修なのは英語ぐらいのようです。

日本語の授業では、通常教科書に応じた活動をやっていますが、時期に合わせたことも紹介しています。5月の初めには、新聞でかぶとを折りました。5月末には、サミットに合わせて伊勢志摩の紹介をしたり、オバマ大統領の広



島訪問に合わせて原爆の学習をしたりしました。被爆者の説明や、なぜ大統領が広島を訪問したのか、被爆者の方はどう受け止めているのかなどをディスカッションしました。ちょうど日本を訪問するプログラムで伊勢志摩と広島に行く生徒がたくさんいたこともあって、興味深かったようです。日本に対する理解が深まることをたくさんやっていきたいと思っています。

シアトルだより June 2016 Vol.3



みなさんこんにちは。6月といえば日本では梅雨ですが、こちらには梅雨はなく、卒業シーズンです。卒業を前に4年生には様々な行事があります。

卒業を前に「イヤブック」が配られます。卒業アルバムのようなものです。大きな違いは、日本のアルバムは3年間の記録として卒業前に買いますが、こちらのイヤブックは、毎年全校生が登場するアルバムということです。つまり買いたい子は毎年買うことになります。中身はかなりクオリティが高く、驚くべきことに生徒が企画編集しており、そのための授業も用



意されていることには感心しました。

それからプロムというダンスパーティーがあり、学校のPTAが会場を貸し切ります。この日は生徒もうんとおしゃれして、目いっぱい楽しめます。卒業式の前日には、校内の全生徒が集まります。卒業生のスピーチや、優秀生徒の表彰があります。この舞台に立てることはとても名誉なことで、生徒はスタンディングオベーションで迎えます。

卒業式本番は、市の施設を借り切って行われました。スクールカラーの紫のガウンを着るのですが、このガウンにも成績によってしるしが入っています。卒業生の名前が呼ばれると保護者は拍手喝采です。日本の卒業式とは雰囲気は違いましたが、卒業を祝う気持ちは同じに感じました。

こちらの学校では職員全員がそろう機会がほぼないので、なかなか挨拶ができる機会がありませんでしたが、チャンスを見つけ、頼んでやっと話をさせてもらいました。職員全員に認知してもらい、ぐっと動きやすくなりました。



授業についてですが、3年生の日本語では、卒業を前に新たな単元をしました。地球規模の貧富の問題や身近な人種差別など、地球に生きる人としてどう考えるかを、活動や討論を交えつつ、最終的にそれぞれが発表しました。

2年生の日本語の授業では、学校紹介の練習をしました。神戸北高校の位置、人数、規則、特色などについて紹介をし、それをもとに今度は生徒がカミアック高校の紹介をするという内容です。話すテストは、Skypeで神戸北高校の生徒と話しているという設定で、お互いの学校紹介の役割演技。実際は私が生徒役をしました。

時差の関係でなかなか難しそうですが、別の形でも何らかの交流ができればと考えています。



シアトルだより July 2016 Vol.4



暑中お見舞い申し上げます。日本は夏真っ盛りでかなり蒸し暑いことかと思えます。こちらの夏は湿気が少なく、とても過ごしやすいです。日中でも日陰に入るとひんやりするくらいです。



7月4日はアメリカの独立記念日でした。多くの家の前には星条旗が掲げられ、パレードが行われ、夜には派手に花火が打ち上げられます。アメリカの国旗の色である赤や青を身にまとった人があふれ、お祭り騒ぎです。自分たちの国や旗に誇りを持っていることが伝わってきました。小さなパレードに参加しましたが、参加者が沿道に向かってお菓子を投げて祝っていることに驚きました。



さてリオデジャネイロ五輪が真近です。女子バスケットボール日本代表の渡嘉敷来夢選手は身長193cm。シアトルストームというプロチームに所属しているので現地の日本人会の主催で壮行会が行われました。フリースローの時にどのように平常心を保っているか質問したところ、バスケができることに感謝の気持ちをもって投げている、4年前にケガをしてから好きなバスケができてありがたいと心から思うようになり、物事もポジティブに考えられ平常心でいられるようになったということでした。リオで暴れてきますと力強いメッセージでした。



学校は今夏休みですが、学期末の様子について書きます。日本語の授業では、毎時間最後の10分ほどを文化紹介に充てていましたが、学期末は「日本文化週間」と名付け、日本文化の実演や



実習をしました。茶道や書道、空手や英語落語、いろはかるたや五色百人一首、すきやき調理実習などでどれも好評でした。

学期末には教科書を学校に返します。こちらの教科書は、びっくりするぐらい分厚くずっしり重く、百科事典か電話帳のような感じですが、けれど個人が購入するのではなく、図書館から借りていて、学期の終わりには教科書を全部返します。



化学の授業で、タイダイと呼ばれるTシャツの絞り染めをし、最後の日に着て来る習慣があり、参加しました。何事もイベント化して楽しむ国民性です。

一年の終わりにも特に何かセレモニーがあるわけではなく、あっけなく終わりました。成績は生徒や保護者にオンラインで通知されます。普段あっけらかんとしているアメリカの生徒ですが、通常の成績の平均値が進学に大きく関係するので、そこは気にしているようです。



シアトルは夏以外よく雨が降るらしいので、気候の良い夏を楽しんでいます。みなさんも体に気を付けて夏をお過ごしください。



お盆が過ぎ、オリンピックも終わり、夏休みも終わりに近づきました。日本ではあまり見かけなくなった盆踊りですが、こちらでは現役です。お盆は8月ですが、7月に行われていました。日系人だけでなく、日本とは関係ない普通のアメリカ人も、本当にたくさんの老若男女が盆踊りを楽しんでいて、長い歴史があり、人々に受け入れられている様子が見て取れました。8月6日には灯籠流しも行われました。



それから Sea Fair という夏を祝うパレードもシアトルの大通りで行われました。姉妹都市の神戸市が毎年パレードに出ていて、参加しました。上のマークはそれぞれの都市の旗です。阪神大震災の時、被災した神戸の子どもたちをシアトルに招待しました。その子どもたちが大人になってシアトルを訪ね、お礼を兼ねての

パレードでした。こちら交流の積み重ねを感じました。

パレードといえば、シアトルではたくさんのパレードが行われます。中でも有名なのは6月のPrideパレードです。LGBTと呼ばれる、性的少数者が自分たちを誇りに思って大通りを歩きます。人それぞれという意味を込めて、街は虹色であふれます。街全体で彼らを支えていて、成熟した街という印象を受けます。



シアトルにはスポーツのチームも多いです。現地で一番人気なのはアメリカンフットボールのシーホークスですが、日本で有名なのは今年好調な野球のマリナーズです。岩隈投手や青木選手が在籍し、ヤンキース田中投手との元楽天同士の投げ合いもありました。イチロー選手はシアトルを離れた今も人気で、3000本安打は大きく報道されました。また、川澄選手や宇津木選手が所属する女子サッカー、シアトルレインも強いです。

さて学校はといえば、7月から8月の夏休みのうちに清掃スタッフがすべての教室の床を洗い、廊下はワックスがけをしてくれました。こちらの学校は9月からなので、夏休みは日本でいうところの春休みという意味もあります。



8月の後半には、新学期に備えて1年生から4年生まで各学年が決まった日に生徒が決まった日に登校する日があります。授業を確認して教科書を受け取ったり、生徒証の写真を撮ったり、ロッカーの割り当てを確認したりといろいろと準備をするためです。そこではリーダーシップという授業を選択している生徒や、チアリーダーの生徒がその係をしていました。特に新入生が登校する日は、彼らが学校中案内して回ったり、受付をしたりと学校中で大活躍でした。この時期はBack to schoolと言われ、9月がいよいよ新年度が始まります。

シアトルだより September 2016 Vol.6



シアトルはアメリカ合衆国の北西、ワシントン州にあります。上の左側がワシントン州の旗で、州都はオリンピアという街にあり、公的な機関が集まっています。先日、オリンピアのワシントン州教育長を訪問し、これまでの報告と、お互いのために有意義な活動になるようがんばりますと話しました。教育省は、昔の州政府があった建物を使っているのも、とても厳かな雰囲気でした。日本とつながりの深い州議会議員さんも訪ね、州議会の議事堂を案内してもらいました。州の最高裁判所もすぐそばにありました。



9月最初の週には、シアトル近郊のベルビューという街に行きました。マイクロソフトの本社も近く、大きなビルが並んでいます。「ジャパンフェア」という催しがあり、日本に関するさまざまな展示や実演がありました。そこで兵庫県のブースをお手伝いしてきました。

さて、タイトルは「シアトルだより」と書いていますが、勤めている学校はシアトルの北50kmあたりにあるマカティオという小さな市にあり、住まいも学校の近くです。マカティオにはその昔、日系の方が住まれていて、記念碑がありました。明治の終わりから大正の初めにかけて、林業に従事された方々がたくさんいたそうです。苦勞をして街を築いた先人の方々のお墓の中に日本の方のお名前もありました。当時をしのび、手を合わせました。



マカティオは灯台が有名で、9月にライトハウスフェスティバルがありました。花火や屋台があり、たくさんの人でにぎわいました。パレードも高校の前の道で行われ、ブラスバンドやダンス、チアリーディングにアメフトと、生徒もたくさん出演していました。

9月は新生が入学しましたが、入学式のようなものはなく、いきなり授業です。保護者向けには、全学年対象カリキュラムナイトという保護者の学校体験日があります。生徒と同じように、6つのクラスを10分ずつ説明を受けながら回っていくというものです。また、PTAや部



活動が、Tシャツやパーカー、帽子といった学校のグッズを作り、販売していました。その売り上げを活動資金にするためです。

秋は日本では体育大会が行われますが、こちらではありません。スポーツは盛んですが、特にフットボールのシーズンという感じで、こちらでフットボールというとアメリカンフットボールのことです。

なかなかルールが細かいので日本ではなじみにくいところがありますが、こちらではプロの試合が行われる日はあちこちでユニフォームを着ている人を見かけます。高校のアメフトの試合が行われる金曜日は、生徒も日本でいう高校野球の応援といった感じで、大勢応援に詰めかけていました。秋真っ盛りです。



シアトルだより - October 2016 Vol.7



大統領選挙も佳境です。両候補とも夏に近くで集会を開きました。シアトル周辺では民主党が圧倒的に強いですが、地方では状況は逆転します。世界史や米国史の授業では選挙を題材に討論しています。



10月は雨が多く、よく朝から降っていますがでもこちらの人はほとんど傘を差しません。



結構しっかり降っていてもパーカーをかぶるぐらいで、平気で雨に濡れながら歩いています。湿度が低くすぐ乾くので、蒸し蒸ししないからかも知れません。家は学校の近くで、夏の間は自転車か徒歩で通勤していましたが、今は車にしています。ちなみにバスに自転車で乗ることができます。

自転車をバスの前に固定してからバスに乗り、降りたところからまた自転車をおろしてサイクリングできます。運動になり、エコであることからよく見かけます。電車の中にも自転車を持ち込めます。



先日、お隣のオレゴン州ポートランドで、ワシントン州とオレゴン州の外国語教師が集まる会議がありました。スペイン語の先生が一番多く、あ



とはフランス語やドイツ語、日本語などです。そこで研究成果を聞いたり実践発表を行ったりしてよい刺激になりました。その時に乗ったアムトラックという大陸縦断鉄道も快適でした。ポートランドはシアトル以上に自転車にやさしい町でした。

10月の後半になると街はハロウィン一色です。ファームで自分で好きなパンプキンを選んで買ってきて、顔の形に掘って家に飾ります。大人も子どもも楽しんでます。子どもたちは“Trick or treat”と言いながらお店や家を周り、お菓子をバケツをいっぱいにしていました。



高校では、ホームカミングというお祭りがありました。その週は生徒の代表者が中心になって、パレードや、キング&クイーンを選ぶ集会、フットボールゲーム、週末にはパーティがあり、この一週間はかなり盛り上がります。生徒の企画力や実行力には感心させられます。

さて、部活動についてですが、日本とは大きく違います。年間を通して同じ部活動に所属するのではなく、季節ごとに違う部活動が行われ、春、秋、冬と最大3つのスポーツを経験できます。ずっと同じスポーツをしたい生徒にとっては物足りないかもしれませんが、様々なスポーツに触れることができ、同じ部位を使いすぎることによるけがを防げます。スポーツ以外にも演劇や合唱などを時期に応じてやっている生徒もいます。秋



のスポーツは、男子アメリカンフットボール、男子テニス、男女クロスカントリー、女子サッカー、女子水泳、女子バレーボールで、8月中旬から11月初旬までです。放課後はクロスカントリーの生徒と一緒に走っています。雨でもやっぱり気にせず、ずぶぬれで普通に走っているのでびっくりです。



シアトルだより - November 2016 Vol.8



大統領選挙は、移民が多く住む西海岸の人々に衝撃の結果でした。シアトル市内の高校生は次期大統領の人種差別的言動に対してデモ行進をしていました。多くの学校では、校長先生がこの学校は誰もが平等で安全な場所だとメッセージを出したと聞きます。勤務校でも社会科をはじめ様々な授業で生徒のディスカッションがあったようで、生徒が発行する学校新聞にも一面で取り上げていました。動揺が広がった11月でした。



日本では文化の日がありますね。シアトルに日本文化会館という歴史的な建物があり、Bunka no hi という日本紹介のイベントで、兵庫県のブースを担当しました。来年は酉年なので、はばたんのカードに色を塗って、名前やメッセージを筆で書いてもらいました。

また近くの小学校ではカルチャーナイトという、いろんな国の文化を紹介するイベントがあり、日本語クラブの生徒と折り紙をしました。Origami という言葉を知っている子どもは多いですが、小さな紙をぴったり重ねるという経験はほとんどないのでとても難しそうでした。



11月の後半はサンクスギビングという祝日があり、七面鳥を食べることで有名です。入植した西洋人が収穫期に先住民に感謝したことが起源ということになっています。サンクスギビングにはカリフォルニアで前ALTのステファニー先生にも会いました。神戸北高校を懐かしがっていました。

日本でも歳末募金などがありますが、こちらでもサンクスギビングからクリスマスにかけて寄付の時期です。キャミアック高校では、缶詰などを持ち寄り、恵まれない子どもに寄付をする取り組みがされました。また、3時間目の授業がホームルームとなるのですが、各ホームルームごとに子ども一人に対してクリスマスプレゼントを贈ります。



その中心になっているのはリーダーシップの生徒です。日本でいう生徒会執行部の活動のようで、それが授業になっています。リーダーシップ入門の授業を終え、次年度に面接や作文で認められた生徒がリーダーシップの授業を取ることが認められます。グループごとに校内の様々な行事を担当し、企画や司会、広報、運営に意欲的に取り組みます。

日本語の授業では、日本の高校とアメリカの高校の違いについて学習しています。先日は映画ビリギャルを見て受験について学びました。神戸北高校の一年間も紹介しました。一丁食堂の様子を見せたら生徒はとても羨ましがっていました。「時事英語」を選択している3年生からはビデオレターが届きました。生徒は返事を楽しみにしています。今後もお互いの生徒の英語と日本語学習のために続けていきたいです。



シアトルだより - December 2016 Vol.9



温暖と聞いていたシアトルですが今年はまだもう3回も雪が降りました。北高と比べればどうということありませんが、一度休校になりました。



11月第4木曜サンクスギビングの翌日をクリスマスショッピングを始めるブラックフライデーといい、クリスマスシーズン突入です。12月中



ごろになると挨拶が交わされます。宗教に関係なく使えるのは「ハッピーホリディ」で、感謝の言葉を記したカードやジンジャーブレッドクッキーを贈りあい、暖炉のそばなどに飾っておきます。生徒からももらいました。クリスマスツリーは本物の木があちこちに売られていて驚きました。

高校では年に2度、みんなが同じテーマの服装をしてくるスピリットウィークがあります。冬のスピリットウィーク最終日は、アグリースウェーター(クリスマス柄のセーター)ディでした。街にはサンタ帽やトナカイカチューシャをつけている人が多く、シアトルではセーターのダサさを楽しむマラソンまであったようです。



コンサートもたくさんありました。学校に500人程度収容の劇場が併設されていて、その中のスタジオで音楽の授業を受けた上に早朝や放課後に練習しています。最大の催しは、隣町の高校のホールでのオーケストラとコーラスの合同コンサートです。有料ですが、なんと1200人収容ホールが2階までいっぱい。踊りながらのクリスマスキャロルから堂々とした本格的宗教音楽まで盛りだくさんで、本当にプロのようでした。出演生徒は男女ほぼ同数ですが、多すぎて順番に演奏したり、客席を取り囲んで演奏したりとすごい迫力でした。それもそのはず全校生徒の6分の1に当たる400名が出演していました。

ところで月に一度ほど集会があり、先月はベテランズデイという退役軍人をたたえる集会でした。映画館やレストランでも割引があったり、職員の中にも軍経験者の先生がたくさんいたり、軍と日常生活の密接さがうかがわれ、いかにもアメリカらしいと感じます。12月は冬のスポーツを応援する集会でした。



冬のスポーツは、男女レスリング、男女バスケ、男子水泳/ダイビングです。音楽もやる生徒は多く、バイオリンも競泳もトップレベルの生徒もいます。オーケストラとレスリング、日本では相性がいいイメージはありませんが、どちらもたしなみとして楽しんでいるのは恰好いいと思います。



さて日本語の授業では、日本のソウルフード!のおにぎりを作ったり、ボランティアの方に来ていただいて買い物会話の練習をしたりしました。コンビニおにぎりの包装やデパートのラッピングサービス、お札の精巧な偽造防止加工など、日本の技術やクオリティにはみな驚いていました。

では、ハッピーホリディ!みなさまよいお年を。

シアトルだより- January 2017 Vol.10



あけましておめでとうございます。シアトルの中心にスペースニードルというタワーがあり、大みそかにはなんとそのタワーから花火が上がり、たくさんの方でカウントダウンをして派手に年が明けました。ワシントン州の北の端に神社があり、初もうでをしました。日本そのものという雰囲気、多くの方が過ごしてこられた歴史を感じます。お正月を三が日といいますが、こちらで



は新年は元日のみという感じで、授業も1月3日からです。少し前までのクリスマスの雰囲気からあつという間に日常が始まります。1月の最初の週末に、家々に飾っていた生木のクリスマスツリーが回収されていました。

シアトルと神戸は姉妹都市を結んで今年で60年になります。去年は神戸まつりにシアトル市長も参加し、今年はこちらのパレードに神戸市長が参加するそうです。シアトルセンターという市の中心には神戸から送られた鐘があり、神戸ベルと呼ばれています。そこで日本国総領事以下関係者による震災の追悼



式がありました。発生時刻に合わせて、シアトル時間の1月16日お昼12時46分に黙とうをしました。授業でも震災について伝えました。

その日は、公民権運動指導者マーチンルーサーキングJr 記念日で、権利や平等を訴える集会や行進が行われました。またその後も、政治状況を不安に思う人々により大規模な抗議デモが行われています。大統領令に対して、ここワシントン州の司法長官が差止命令をしたことは日本でもニュースになっていると思います。

さて学校では、時間を見つけて他教科の授業の見学にしています。英語(国語)や社会を見ることが多いですが、日本とは授業のスタイルや生徒の様子が違います。じっとしては評価されないのが、意見はどんどん発表しています。黒板をノートに写すというよりも、話し合ったり調べたり、何かを作ったり発表したりと、能動的に学習している印象を受けます。



そのように授業や部活動などでリーダーシップを発揮して頑張っている生



徒を月に1回学年男女1名ずつ、月間優秀生徒として表彰します。校内掲示され、公共施設やスーパーなどに置かれている地域新聞にも載ります。学区内に高校は2つだけなので、生徒の活動の様子がたくさん掲載されています。

もう一つのマリナー高校にも、月2回程度お手伝いに行かせてもらっています。地域の行事に出かけたときに、「マサ先生」と声をかけられることも増えました。



こちらでは小学校から高校まで、毎日米国の星条旗に向かって忠誠の誓いという決まった言葉を唱えます。移民が多い国の成り立ちに関係がありそう



です。旗といえば、スポーツや行事の前に国旗や国歌が頻繁に登場します。国民の多くが自分たちの旗や歌を誇りに思っていることが感じられ、当たり前だけど素晴らしいと感じました。授業で日本の国歌を教え、そのことを生徒に伝えました。あと2か月、それぞれの良さにたくさん気づければと思っています。

シアトルだより- February 2017 Vol.11



2月は卒業シーズンですね。3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。こちらは2学期制で、9月から始まった1学期が終わり、2学期が始まりました。今年は例年になく積雪で、車社会のアメリカらしく道路状況で2度休校になりました。学区の裁量なのですが、ニュースによると州内ほぼ休校でした。



冬でプロスポーツはほとんどシーズンオフですが、この時期人気なのはアイスホッケーです。日本ではなじみがないですが、州内でも複数のプロチームがあります。動きが早くプレイが激しいので見ていて楽しいです。

さて学校についてです。小学校5年、中学校3年、高校が4年です。これは州ごとだけではなく学区にもよっても違います。小学校から高校まで基本的に学区で決まり、受験はありません。長女は現地の小学校に通っています。毎日あるのは算数と英語、歴史と科学が日替わりで、他はコンピュータや体育、音楽などで



カミアック高校の朝は早く、1限はなんと7時20分から始まります。2000人以上の生徒が在籍するのでカフェテリアに収まりきらず、昼休みは生徒を半分に分けて2回あります。各先生が自分の教室を持ち、生徒は1日6時間常に教室移動して授業を受けます。必修科目は決まっていますが、その他選択科目として、演劇や映像、マーケティングや心理学、ロボット工学からヨガまで、レベルの高い科目が豊かです。どの教室もパソコン、プロジェクタ、スクリーンや生徒用パソコンがあり、IT環境が整っています。



職員の仕事も分担されています。生徒の進路に応じて科目を決めるのは、日本でいう担任の役割をしているカウンセラーです。それからセキュリティや出欠管理、生徒指導や成績管理、カリキュラムに施設管理と、それぞれ専門職員がいます。授業をする教員以外の実にさまざまな人々が学校で働いており、みんな仕事が終わればすぐに帰ります。それぞれの仕事分担が明確で、学校の業務がシステム化されており、仕事量と報酬が適切に見合っているように感じます。限られた人員で多くの仕事をカバーしている日本の現状を考えると、教育にしっかりお金をかけて必要なところに適切に投資できる環境を正直うらやましく思います。



ワシントン州日本語教師会のコンファレンスがありました。先生対象にワークショップを行い、日本語1の授業で行っている、文字や翻訳なしの会話練習の方法を発表しました。こちらでは高校で初めて外国語を学ぶので、日本語1選択生徒は大半が日本の中3にあたります。少し遅いように思いますが、意欲旺盛によく手をあげ発表し、学習開始半年なのに結構上手に話します。アメリカには大学受験がなく、基本的に高校の成績で大学が決まるので、指導する側もやりたい活動に絞ることができます。大きく異なる環境の中ですが、あと1か月、日本の学校で生かせるヒントを探したいと思っています。



シアトルだより- March 2017 Vol.12



いよいよ3月となりました。日米親善の象徴、シアトルにあるワシントン大学の桜。例年この時期は満開だそうですが、今年は少し遅いようです。



日本語3の授業では、日系人の歴史についてグループで調べました。戦



前、アメリカ西海岸にはたくさん日本人移民が住んでいました。子は日系二世といい、日本人の顔ですが米国に生まれ育ち米国籍を持つ人々です。現在観光名所のパイクプレイスマーケットという市場を築き、日本町もできました。しかし第2次世界大戦開戦後、日系人強制収容の大統領令が出

されました。米国民であるのに突然家も土地も追われ、砂漠の収容所で終戦後まで数年を過ごしました。葛藤の末、米軍として戦った人も多く、今はその孫が生徒世代です。今年はそれから60年後。安倍首相がオバマ大統領と開戦の象徴であるパールハーバーを訪問し、話題になりました。



「日本語キャンプ」という催しが中学校と高校の2日に分けてありました。日本語教師会の主催で、各校から生徒たちがやってきて、日本文化を学んで一日を過ごすイベントです。琴や生け花、和太鼓体験をしたり、クイズや運動会をしたりして楽しく過ごします。チャンバラ遊びを取り入れたところ、大喜びでした。みんな日本のことが大好きです。結局、文化を好きになることが、外国語を話す一番の近道なのかもしれません。

大阪から交流校の高校生が来て数日過ごしました。アメリカではなぜ授業中に寝ている生徒がいないのかという質問に、こちらの生徒は、ついていけなくなると困



るし自己責任だからと言っていました。日本より規則の面ではかなり自由ですが、やるべきことは案外きちりやっています。いろんな授業を見に行きましたが、基本的に静かに座っていればよいというわけではなく、積極性が求められるので、確かに寝ている暇はありません。こちらの授業は



ノートに写すだけでなく、何か自分で実際に創造的な活動をやる場面がいつもあります。そういう授業を自分も目指したいということが、この一年で一番自分が学んだことです。

さて、一年間の任期も今月で終わりです。マカティオ市の暮らしやカミアック高校について書いたコラムを地元の「マカティオビーコン」という新聞に載せてもらい、知り合いや高校の同僚からたくさん声をかけられました。一年を振り返り、形にも残ったのでよかったです。こちらは4月といっても特に学期の切れ目でも何でもなく、なぜ今帰ってしまうのかと何度も言われました。



勤務最終日の数日前にスタッフミーティングで最後のあいさつをしました。すっかりなじんだたくさんのスタッフや生徒に Sayonara を言って、この思い出多きカミアック高校を後にします。それまでの価値観が大きく揺さぶられる一年でした。お世話になったすべての方に感謝でいっぱいです。



シアトルだよりも今月で終わりとなります。一年間ありがとうございました。